

聖徳太子ゆかりのスポット

C-1 四天王寺 (旧境内) (四天王寺 1 丁目)

推古天皇元年(593)日本法最初の官寺として聖徳太子によって建立された寺院が四天王寺である。場所については「日本書紀」と「上宮聖徳太子伝頌開記」では相異があり、前者は荒陵(あらはか)の意つまり現在地と伝え、後者は最初玉造(中み区)に創建され、「推古天皇元年に荒陵に移る」という旨の記載がある。しかし決着は出でない。因みに現在の四天王寺は山号を荒陵山といい、何れの宗派にも属しない単立寺院で和宗を名乗る。伽藍配置は「四天王寺式伽藍配置」と呼ばれる独特なもので日本最古の建築様式のひとつである。

C-1 四天王寺 (聖靈院(じょうりょういん)) (四天王寺 1 丁目)

聖徳太子をお祀りしている太子殿と太子殿を「聖靈院」といい、太子殿には南無仏二像と聖徳太子像(秘仏)、奥宮には聖徳太子摸像(秘仏)が祀られている。

C-1 四天王寺 (西門石窟屋(さいもんしゆのとりい)) (重要文化財) (四天王寺 1 丁目)

永仁2年(1294)に忍性(にんじょう)の建立による石造の大鳥居である。中央の額版には「駿越如来転法輪・当極樂寺東門中心」と書かれているが、この門は中世浄土思想の影響で西方淨土の東門であると考えられ、ここに西岸を象徴する極楽浄土を想うとう「日想觀(じゅうそうかん)」の修行がなされたところである。現在でも、春秋の彼岸の日には、太陽がこの鳥居の中心をとおして沈むを見ることができる。

C-1 四天王寺 (金剛塔) (四天王寺 1 丁目)

角井堂は焼火で焼失後、昭和30年(1955)に再建された。角井堂の靈は、金剛の地下より湧き出す白石臼出の水で、回向(供養)を済ませた絆木を流せば種樂往生が叶うといわれている。東面横行は、四面あり、西側を龜井の間と呼んでいる。東側の風に向ひ呼ばれ、左右に馬頭観音と地蔵菩薩がある。中央には、その青壁徳太子が井戸に姿を映し、楊枝で自画像を描いたという楊枝の御影が安置されている。

C-1 四天王寺 (五重塔) (四天王寺 1 丁目)

現在のものは昭和38年(1963)の再建であり、8度目であるといふ。塔の総長39.2m、相輪の長さが12.3mもある。相輪の長さが塔全體の約3分の1に達するのが特徴で、塔の最上部には舍利が奉安されている。

C-1 四天王寺 (金堂) (四天王寺 1 丁目)

五重塔、講堂とともに昭和38年(1963)に再建された。内部はエンタシスの空間14面と総延長50mにも及ぶ繊細な絵画を描いた中村岳彌画の筆による壮麗な伽藍が描かれている。四天王寺が神社を創建したとされる。これらの神社を四天王寺七宮といい、天照神社・大江神社・河原神社・土塔神社・土塔神社・土之上宮神社と指す。

C-1 河堀稻生神社 (こぼれいなりじんじゃ) (堀の跡) (大通 3 丁目)

景行天皇が稱生を記したのが始まりといわれ、後に聖徳太子が本殿を遷営し、祖父の崇範天皇と併祀した。785年和氣清麻呂が農業の振興と水害の防止を目的に、撰河と内川の國境に河川を開拓して西方海に流し込む大规模土工事を行為し、農工の安全を祈願した。このことを境に近い一帯の地名表記は古保坂(こぼれ)から河堀と改まった。茶臼の河底池にはその名残とされ、『気風』といふ橋が架かっている。

C-1 久保神社 (くほじんじゃ) (勝山 2 丁目)

四天王寺七宮の一つで、四天王寺建立の際に聖徳太子が創建した。昔、この辺りが蓬地だったのにこの社名になったともいわれる。境内の蓬成就是宮は、聖徳太子が四天王寺建立の願をかけたことから、現在も願掛けが多い。

C-1 堀越神社 (ほりこしじんじゃ) (茶臼山町)

聖徳太子により、光明媚なる茶臼山の間に、四天王寺建立と一緒に四天王寺七宮のひとつとして創建された。明治中期まで、南沿いで美しい蓬があり、この蓬を眺めて參詣したので、堀越といな名前が付けられたといわれる。八軒家浜近くの蓬野町の第一王子「蓬津王子」は堀越神社に合祀され「無野第一王子宮」として現在に至る。

C-1 大江神社 (おおえじんじゃ) (勝山 2 丁目)

四天王寺七宮の一の社で、天神の御子として星宿天門を本尊にしていたが、明治維新的神仏分離によって今は豊受大神を祀っている。境内には芭草、季三郎、三津、時岡の句を刻んだ四吟碑がある。境内には狛犬ならぬ狛虎も鎮座する。明治40年(1907)に、四天王寺七宮のうち土之上宮神社・小儀神社・土塔神社の祭神が合祀された。

C-1 小儀宮跡 (おぎのみやあと) (勝山 2 丁目)

江戸時代に発足した天王寺村のひとつである小儀村の鎮守小儀神社の跡地で、祭神は素戔鳴尊を祀っていたが、明治期に大江神社に合祀され現在は石碑のみが残っている。

B-2 上之宮跡 (うえのみやあと) (上之宮町)

上之宮神社として聖帝太子の祖父である欽明天皇を御祭神として祀っていたが、明治期に大江神社に合祀され現在は石碑のみが残っている。

C-1 要染寺勝毘院 (あいぜんどうしょまいん) (夕陽丘町)

聖徳太子は要染勝毘院(しきゅうさんきょう)を講説したこところなど伝えられる。本尊に要染明王を安置するため別名を「要染堂」ともいわれる。本堂は元和4年(1618)に再建されたもので、大阪府有形文化財に指定されており、多宝塔は文禄(ぶんろく)3年(1594)豊臣秀吉の建立といわれる。多宝塔は大阪府内古の木造建築物であり、重要な文化財に指定されている。

C-1 真光院 (しんこういん) (夕陽丘町)

594年聖徳太子による創建で、父・用明天皇の供養の際に阿弥陀如来が西方の方角に出現されたことから、四天王寺境内の西のにお寺が創建された。この地には太子が六万体の地蔵尊を造り祀ったといふ伝承があり、「六万体地蔵尊の寺」として有名である。

C-1 頤順寺 (ちょうげんじ) (竹本義太夫墓所) (大阪市顕彰史跡) (大通 1 丁目)

推古 22 年(614)、聖帝太子の父である用明天皇の冥福を祈るために小堂を構えたのが始まりとされる。翌年、蘇我馬子の子御觀(えかみ)が住職となり頤順寺を改めた。境内には人形浄瑠璃の黄金期を築いた竹本義太夫の墓所がある。四天王寺七宮の七つ土塔社があったとする。

C-1 清水寺 (きよみずでら) (玉出の瀧)

(伶人町)

寛永 17 年(1640)、延海阿闍梨によって、京都の清水寺を模して高台に建立された。本尊として、京都の清水寺から、聖徳太子作といわれる千手観音を護り受けたため「新清水寺」と呼ばれる。境内には、大阪府内唯一の天然涌泉である「玉出の瀧」や、西側の瀧に「清水寺舞台」がある。

C-1 神現寺等 (とうごくじ) (ヘルジの壁) (壁瀬加瀬莊跡) (茶臼山町)

百濟僧圓了(602 年來日)を招き、訖圓三尊を本尊とする百濟古念寺として始まった。聖帝太子が創建したといわれる。1615 年大坂夏の陣で焼失したが、1689 年修復と源流に亘る。翌年、貴宗邦夏が改められた。1615 年大坂夏の陣で焼失したが、1689 年修復と源流に亘る。翌年、貴宗邦夏が改められた。八軒家浜近くの蓬野町の第一王子「蓬津王子」は堀越神社に合祀され、現在に至る。

C-2 龍霖寺 (かさざぎのりのみや) (中央区森ノ宮中央 1 丁目)

約 1400 年前、聖帝太子の曾孫・物部守屋の戦いに際し、勝った時は四天王寺七宮で、敗れた時は土塔神社と戦勝したといわれる。境内には高祖の御子孫・五代將軍・源氏の御子孫・物部守屋の墓がある。

A-2 龍霖寺 (りゆうりんじ)

戸代時代後期の儒学者・詩人である庄周(りょうしゅう)が住む隠士として有名である。天皇と親交があり、天皇を祀る。元は土塔神社の末社で、現在は本殿として祀られる。

A-2 龍霖寺 (りゆうりんじ)

戸代時代後期の儒学者・詩人である庄周(りょうしゅう)が住む隠士として有名である。天皇を祀る。元は土塔神社の末社で、現在は本殿として祀られる。

A-2 龍霖寺 (りゆうりんじ)

戸代時代後期の儒学者・詩人である庄周(りょうしゅう)が住む隠士として有名である。天皇を祀る。元は土塔神社の末社で、現在は本殿として祀られる。